

GOD WITH US

Part 2: Conquest and Chaos
Joshua – Judges – Ruth

Message 8 – Judge Jephthah

Judges 9-12

神は我らと共に

パート2：征服と混乱

ヨシュア記 — 士師記 — ルツ記

第8メッセージ — 士師エフタ

士師記9-12章

はじめに

イスラエルの罪のサイクルは継続し、ますます下落状態へと陥った。それでも、神の慈悲は、わがままな民を救出に来てくださる度に、彼らの罪を上回り続けた。エフタの物語では、神が弱者を用いて救出を実現される。私たちは「シンデレラ」の物語のように、弱者が最後に勝者になる物語に魅かれる。エフタの物語はまさにそれである—見捨てられたものがチャンピオンの座を取る物語である。誰もが士師エフタの物語から大きな希望を得ることができる。なぜなら、神は、ご自身のご栄光をあらわされるために誰でもお使いになる事が出来るからです。その鍵は、エフタのように、私たちも神に過去の恥を克服していただき、誉れと栄光を神にもたらす新たな物語を書いていただく選択をする必要がある。

ギデオンの子孫の間の混乱：9：1-57

士師記9章は、ギデオンの遺産の悲しい事後を記録している。ギデオンとシェケムの側室との間に生まれた息子のアビメレクは立ち上がり、彼自身がイスラエルの王であると宣言した（9：1-6）。彼の地位を固めるために、情け容赦なく合法的な息子たちを殺害した—70人中69人が一日で殺害した—最年少のヨタムだけは隠れて残酷な殺害から免れた。

必ずしも、戦いの英雄が日常生活の中の英雄とは限らない。ギデオンは神の御国のために大なる貢献をしたが、私生活の罪は後に続く世代に悲惨な結果をもたらした。使徒パウロは若いテモテに手紙を書いた：**自分自身にも教える事にも、よく気を付けなさい。あくまでそれを続けなさい。そうすれば、自分自身をも、またあなたの教えを聞く人たちをも救うことになります。（第一テモテ4：16）**。あなたは、神との個人的歩みにの中で十分な注意を払っておられるでしょうか？神との歩みを強化する霊的訓育に従事しておられるでしょうか？

たった一人生き残ったギデオンの息子であるヨタムは、アビメレクをサポートするために、父に背を向けたシケムの人々を責めた。彼は、シケムとアビメレクの男たちの関係に呪いを宣告した。皮肉なことに、この呪いは、モザイク契約の更新の祝福にあずかった場所であるグリシヨム山の頂から宣告された（参照：申命記11：29）！あとの物語は、アビメレクがイスラエルを支配した3年間、この呪いが実際に満たされたことを記録している（9：22）。神は、アビメレクとシェケムの男たちとの関係を破壊されるために「悪霊」を送られた（9：23-25）。以来、彼らの間には悪意と殺意以外に存在するものは無かった。（同様に、神は、サウルの王の統治を終えるために悪霊を送られた【第一サムエル16：14】）。

神は、なぜ、アビメレクにイスラエルを3年間支配することをお許しになったのでしょうか？イスラエルには、神ご自身を除いては「王」があってはならない。しかし、神はこの凶悪な暴君に3年間も支配することをお許しになられた。私たちに、神のお考え、御心、タイミングを理解することは不可能である。しかし、全ては、神の支配下にあり、神の主権の正義に従う中で、人間諸事をお許しになられる。困難と試練の状況が「あまりにも長く」続くとき（私たちの目に）、私たちは信仰をもって、神は、あらゆる場で、人々、状況、タイミングの完全な制御にあられることを信じなければならない。神に失敗は無い。

ガアルという名の男がアビメレクに立ち上がり、シェケムの男たちに彼を支配者とするよう求め（9：26-29）、その要求はかなえられた。アビメレクは、ガアルとシェケムの住民を攻撃した。そして、ガアルとその親戚を追い払い、街を焼き尽くして、シェケムの指導者全員を滅ぼした（9：30-49）。最終的に、アビメレクは、テベツにて、ひとりの女に塔の上からアビメレクの頭に石臼を投げられ、その頭蓋骨を砕かれて殺された。このようにして、強い憎しみの悪霊はその恨みを果たし、アビメレクに対するヨタ

ム（たった一人生き残ったギデオンの息子）とシケムの人々の呪いは成就した。

アビメレクは、指導者にしたくない典型的な人格である。彼は、自己中心的欲望をもって支配した。そして、欲するものを手に入れるために冷酷な支配戦略を進めた。対抗するすべての人間を殺害した。神の役割を遂行してしまった。侵害者に対して、いかなる独自の復讐も強要した。最終的にこの誇り高い男は最も屈辱的な方法で死んだ。戦士の剣に落ちるのではなく、女の石臼によって砕かれた。正しい者が権力を得れば民は喜び、悪しき者が治めるとき、民はうめき苦しむ。（箴言29：2）あなたは誰に支配を任命するか十分に注意しなければならない。指導者が進む路を従者も行かなければならない。

ペリシテ人&アモン人の弾圧： 10：1-10

アビメレクの後、45年間、二人の士師、トラとヤイルがイスラエルを率いた：ヤイルの30人の息子は30頭のロバに乗り、30の街を持っていたことを除いては二人についての記述は殆ど無い。明らかに、ヤイルの個人的な栄光とその息子たちの栄光以外に、記憶に記載するに値することは無かったようである。

そこで、イスラエルの民は、再び神から離れてしまった。新たな罪のサイクルである！しかし、今回、彼らの霊的不貞は完全に貫かれた：

イスラエルの人々は再び主の前に悪を行い、バアルとアシタロテおよびスリヤの神々、シドンの神々、モアブの神々、アンモンびとの神々、ペリシテびとの神々に仕え、主を捨ててこれに仕えなかった。（10：6）

過去の罪のサイクルでは、イスラエルは、他の神々（シンクレティズム・文化的重層構造）の礼拝と主の礼拝をブレンドする傾向があった。今回は完全にヤハウェを放棄し、どうやらヤハウェ以外のあらゆる「神々」に仕えてしまったようである！

主はイスラエルに対して怒りを発し、彼らをペリシテびとの手およびアンモンびとの手に売りわたされたので、（10：7）

これらの抑圧下で、イスラエルは粉々にされ、押しつぶされ、大いに悩ませられた。（10：8，9）

そこでイスラエルの人々は主に呼ばわって言った、「わたしたちはわたしたちの神を捨ててバアルに仕え、あなたに罪を犯しました」。（10：10）

神は、あなたの注意をひくために、何度繰り返さなければならないのでしょうか？イスラエルの民は更に18年もの間、粉々にされ、押しつぶされ、大いに悩まされなければならなかった。それでも、イスラエルは無駄なことにも、あらゆる神々に助けを呼び求め続けた。私たちはあらゆる選択の余地が尽きてしまうまで、真の神に呼びかけることをしないので、あまりにも多くの不必要な苦痛が生活に入ってくるのです。神は、悲しまれて、預言者ホセアに言われた：彼らはバアルに帰る。彼らはあざむく弓のようだ。彼らの君たちはその舌の高ぶりのために、つるぎに倒れる。これはエジプトの国で人々のあざけりとなる。（ホセア7：16）大いに悩まされている時、あなたは誰に、または、何に向かわれるのでしょうか？あなたは真っ先に主に向かわれるのでしょうか？わたしは山にむかって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。わが助けは、天と地を造られた主から来る。（詩篇121：1，2）

神とイスラエルの論争：10：11-16

ここでの神とその民との間の論争のみことばは、まるで何度も何度も裏切られた後、更に赦しと癒しをもって前進することに対して、消極的になっている恋人同士のやり取りように聞こえる。

主はイスラエルの人々に言われた、「わたしはかつてエジプトびと、アモリびと、アンモンびと、ペリシテびとからあなたがたを救い出したではないか。またシドンびと、アマレクびとおよびマオンびとがあなたがたをしえたげた時、わたしに呼ばわったので、あなたがたを彼らの手から救い出した。しかしあなたがたはわたしを捨てて、ほかの神々に仕えた。それゆえ、わたしはかさねてあなたがたを救わないであろう。あなたがたが選んだ神々に行って呼ばわり、あなたがたの悩みの時、彼らにあなたがたを救わせるがよい」。イスラエルの人々は主に言った、「わたしたちは罪を犯しました。なんでもあなたが良いと思われることをしてください。ただど

うぞ、きょう、わたしたちを救ってください」。そうして彼らは自分たちのうちから異なる神々を取り除いて、主に仕えた。それで主の心はイスラエルの悩みを見るに忍びなくなった。(10:11-16)

それでも、また、イスラエルは真の悔い改めをもって神に呼び求め、神は苦しむ民を憐れんでくださった。神に、ただ「叫んだ」だけではなかったという点に注意しましょう：「外国の神々を処分して主に仕えた」。口先だけで悔い改めたのではなかった。真の心からの叫びが神の心を動かしたのです。

神は感情を持っておられ、私たちの愛(その欠如)は、神の感情に影響する。新約聖書は、私たちが、神の道から外れる時、内に住まわれる聖霊様は悲しまれると教えています(エペソ人4:30)。士師記のこの箇所では、神は見捨てられた恋人であり、イスラエルを別の恋人に手渡す覚悟でおられると教えている。最終的に、イスラエルが深く悔い改めた後は、神は、もはやイスラエルの不幸に耐えられることが出来なかった。そして、神は不忠実な花嫁を救出するために動かされた。あなたは、立ち止まって、自分の行いがどのように神の心に影響しているかを熟考されたことがあるでしょうか？あるいは立ち止まって、信じられないほどの慈悲と神の寛容さーただ何度も何度も、果てしない愛と恵みをあなたに注ぐために戻り続けてくださっているかを考慮されたことがあるでしょうか？これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大きい。(哀歌3:23)

エフタ、イスラエル救出に召される： 10:17-11:11

抑圧者がイスラエルを抑制するために、ヨルダン川の東側のギレアデに集まったとき、人々は問いかけ始めた：

その時、民とギレアデの君たちとは互に言った、「だれがアンモンの人々に向かって戦いを始めるか。その人はギレアデのすべての民のかしらとなるであろう」。(10:18)

エフタはギレアデと娼婦との間に生まれた息子であった。彼が私生児で相続人と認められなかったために、兄弟たちは、エフタを故郷から追い出した。

それでエフタはその兄弟たちのもとから逃げ去って、トブの地に住んでいると、やくざ者がエフタのもとに集まってきて、彼と一緒に出かけ略奪を事としていた。(11:3)

アモン人がギレアデを攻撃した時、長老たちは素早くエフタに帰り、彼らの所にもどり、頭となって救ってほしいと願い出た。

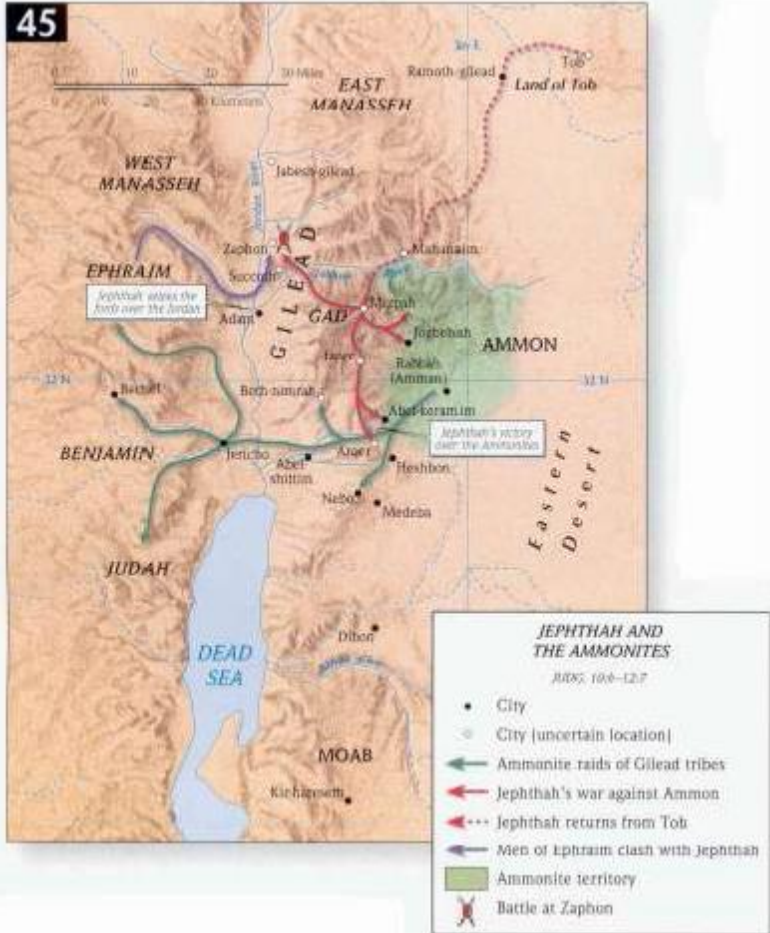
エフタはギレアデの長老たちに言った、「あなたがたはわたしを憎んで、わたしの父の家から追い出したではありませんか。しかるに今あなたがたが困っている時とはいえ、わたしのところに来るとはどういうわけですか」。(11:7)

エフタには、彼を拒絶した者たちを赦す必要があった。彼らのお陰で多くの損失に苦しんだ；しかし、今、戻り、快く彼らを助ける気持ちに変えられていた。イエス様が言われた：しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。(マタイ5:44, 45) あなたには赦さなければならぬ敵がいまいませんか？彼らは、今、あなたの助けを必要としているのでしょうか？あなたは彼らが与えた傷と引き換えに、快く彼らを助けることが出来るのでしょうか？

エフタは戦いによって彼らを救った場合、実際に彼らの頭となる事の再保証を求めた。彼らは、主の御前に彼と契約を交わした：

そこでエフタはギレアデの長老たちと一緒にいった。民は彼を立てて自分たちのかしらとし、大将とした。それでエフタはミヅパで、自分の言葉をことごとく主の前に述べた。(11:11)

神の物語では、主人公となる可能性が無きに等しい人を選ばれる：タマル、ユダ、ラハブ、ギデオン、ルツ、バトシェバ・・・エフタは、娼婦の息子であり、彼の人生は、人の罪のために、それは苦しめられてきた。それでも、神は、イスラエルの歴史の中のまさにその時に、優良なしもべであると判断された。おそらく、あなたの人生にも、数々の不当な状況にあって自分が価値のない、または、役に立たない人間に感じさせられるような体験をさせているのではないのでしょうか。エフタの物語の教訓から励ましを得てください：神は漂流者(「やくざ者」-11:13)をお用いになって救出者、国家の指導者とされ、更に、偉大な信仰者としての誉れにあずかった(ヘブル人11:32)。あなたの人生を神に委ね、あなたが何の目的のために造られたのか見せていただきましょう。あなたが自分で書き得る以上に大いなる物語であることは確実である！



エフタの外交的解決の試み： 11 : 12 - 28

エフタは、戦いを探しているだけの短気な人間ではない証拠を即提示した。戦争を回避したい期待を持って、敵と熟練した外交的努力を締結した。実際旧約聖書の中で、指導者が戦争を回避する試みをもって構成した外交書簡の最高の例であった。

エフタは、重要な原則を具体化させた：戦争という手段に頼る前に、平和の道を歩むことを試みましょう。あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ぎなさい（ローマ人12 : 18）。すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。（ヘブル人12 : 14）。あなたは、いくつかの論争に巻き込まれておられるかもしれません。戦争に頼る前に、あらゆる可能な平和の道を尽くされたでしょうか？平和に状況を解決するための和解決策がまだ残っていないかどうか、是非、神様に尋ねてください。もしかしたら、神の御霊が、今まで思いつかなかったような賢い戦略をささやいてくださるかもしれません。

この外交的書簡の中で、エフタは、モーセの指揮下にあったイスラエルが約束の土地に入国する前のトランスヨルダン領域での動きを振り返っている。彼らの王、シホンが、モーセ/イスラエルを攻撃した際、イスラエルはアモリ人との戦いに余儀なくされたことが示された（以前の土地の占領者で、今、問題になっている。）一番重要なのは、イスラエルの手にシホンとその土地を渡されたのは、主であるということを主張した。更に、アモリ人には、この領土（現在のギレアデ、イスラエルの一部）にいかなる合法的な債権を持っていないことも主張した。エフタは、アモリ人に、彼らの神ケメシュに与えられた土地を所有することで満足し、イスラエルが、彼らの神であるヤハウェに与えられた土地に留まることを許すよう求めることによって結論づけた。

このようにイスラエルの神、主はその民イスラエルの前からアモリびとを追い払われたのに、あなたはそれを取ろうとするのですか。あなたは、あなたの神ケモシがあなたに取らせるものを取らないのですか。われわれはわれわれの神、主がわれわれの前から追い払われたものの土地を取るので。（11 : 23, 24）

オークポイント教会が、今、建っているグロリア・デウス土地を売ることが要求してきた開拓者と座って話し合った日のことを私は決して忘れることはない。その開拓者は、この土地を囲む周囲一帯の土地を所有しており、この27エーカーの土地も含めて、マイル四方の開発を完成しようとしていた。私は、開拓者に全ての成り行きを話し、神が私達に「グロリア・デウス」（神の栄光）という名前の土地を与えてられ、私たちの教会が立ち上げられる前から既に、まさにこの地点にあるべきことが運命づけられていたことを伝えた。何年もの論争、脅し、駆け引きの後、最終的に開拓者は次のよ

うに言って争いを諦めた：「終わりました。あなた方の教会を建てなさい。」ずっと以前からこの土地を選んでくださり、また、神のご栄光が地域にあらわされ輝き続けるための地点として維持してきてくださった神に全てのご栄光がありますように！

エフタの努力にもかかわらず、アモン人の指導者は、エフタの書簡を拒絶し、その領土を手に入れるためにギレアデを攻撃する準備へと取り掛かった。

戦いの前のエフタの誓願： 11：29-33

全ての士師たちと同様に、神の御霊が彼に降りたとき、エフタの救出者としての働きが始まった：

時に主の霊がエフタに臨み、エフタはギレアデおよびマナセをとおって、ギレアデのミヅパに行き、ギレアデのミヅパから進んでアンモンの人々のところに行った。（11：29）

エフタは、アンモナイトの20都市を完全に征服した。エフタの多くの闘いの詳細には殆ど触れられていないが、その代りに、戦いの前の彼の誓いに大きな注目が置かれている：

エフタは主に誓願を立てて言った、「もしあなたがアンモンの人々をわたしの手にわたされるならば、わたしがアンモンの人々に勝って帰るときに、わたしの家の戸口から出てきて、わたしを迎えるものはだれでも主のものとし、その者を燔祭としてささげましょう」。（11：30、31）

エフタが、勝利の帰宅時に家の扉から何・誰か出てくる可能性があるかについて深く考えたかどうかは明確ではない。慎重に誓いの可能な影響を考慮することよりも、勝利を得る方をより重要と考えているようである。これはエフタとそのたった一人の非常に不幸な子供にとって大変高価で悲劇的な不覚となる。

聖句は、急いで誓うことの危険性を警告している。神と関わる際、言葉や思考を衝動的に述べてはいけぬ。神は天国におられ、あなたは地にいます；神の前で軽々しく口をひらき、また言葉を出そうと、心にあせっては

ならない。神は天にいまし、あなたは地におるからである。それゆえ、あなたは言葉を少なくせよ。（伝道の書5：2）イエスも繰り返し教えられた：また昔の人々に『いつわり誓うな、誓ったことは、すべて主に対して果せ』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。いっさい誓ってはならない。天をさして誓うな。そこは神の御座であるから。また地をさして誓うな。そこは神の足台であるから。またエルサレムをさして誓うな。それは『大王の都』であるから。また、自分の頭をさして誓うな。あなたは髪の毛一すじさえ、白くも黒くもすることができない。あなたがたの言葉は、ただ、しかり、しかり、否、否、であるべきだ。それ以上に出ることは、悪から来るのである。（マタイ5：33-37）私たちは、信頼に値する人間であるのでシンプルなことば—YesかNo—かだけで人に信じていただけるに十分でなければならない。また、エフタのような、考慮に欠けた急ぎの誓いを口にしてはならない。

エフタの誓いの代価： 11：34-40

やがてエフタはミヅパに帰り、自分の家に来ると、彼の娘が鼓をもち、舞い踊って彼を出迎えた。彼女はエフタのひとり子で、ほかに男子も女子もなかった。エフタは彼女を見ると、衣を裂いて言った、「ああ、娘よ、あなたは全くわたしを打ちのめした。わたしを悩ますものとなった。わたしが主に誓ったのだから改めることはできないのだ」。娘は言った、「父よ、あなたは主に誓われたのですから、主があなたのために、あなたの敵アンモンの人々に報復された今、あなたが言われたとおりにわたしにしてください」。娘はまた父に言った、「どうぞ、この事をわたしにさせてください。すなわち二か月の間わたしをゆるし、友だちと一緒に行って、山々をゆきめぐり、わたしの処女であることを嘆かせてください」。エフタは「行きなさい」と言って、彼女を二か月の間、出してやった。彼女は友だちと一緒に行って、山の上で自分の処女であることを嘆いたが、二か月の後、父のもとに帰ってきたので、父は誓った誓願のおりに彼女におこなった。彼女はついに男を知らなかった。これによって年々イスラエルの娘たちは行って、年に四日ほどギレアデびとエフタの娘のために嘆くことがイスラエルのならわしとなった。（11：34-40）

実際に全焼のいけにえとして娘を供えたのか（11：31）、それとも、主の聖域で永遠のしもべとして、主に彼女を提供したかについての議論がされ

ている（結果、結婚をすることが許されず、永遠の処女となった。）。子供の生贄に反対される主がエフタの娘を全焼の生贄として喜ばれたとは考えられない。おそらく、父親が誓いに急いでしまったために、永遠の処女として主の聖域で永遠のしもべとして、仕えることを強いられた可能性が高い。そのように考えると、彼女の処女を弔うために二か月の間、山に行く許しを得たことの説明がつく。（注意：ヘブル語の接続語、31節は “and” 又は “or” とも訳することも可能）。

ある意味、エフタの娘こそが、この物語全体の中の真の英雄であるともいえる。父親が戦争から戻ったとき、娘は喜びに溢れながら出迎えた。引き換えに、彼女は不正に「父親を低く」した上に「彼の手を煩わせた」と非難された。それでもなお、彼女は、誓いを果たすように父親を激励（大きな犠牲を払って）することによって、神と父親を敬った。弔いの期間、友達と山に行くための許しを求めることによって、父親への敬意を表し続けた。最終的に結婚して家庭を築く特権を捨て、永遠の処女として主に仕えることによって父親の誓いに従った。最終的に、イスラエルの全女性が4日間の宗教的な遵守の日に毎年記念したのはエフタの娘であった。

人生では、他人の行いによって影響を被ることが頻繁にある。エフタの娘のように、誰かが急いで行動した結果、大きな損失に苦しむ結果を招き得る。または、エフタ自身がそうであったように、単に、負債を継承する（娼婦の息子としてこの世に生まれ、兄弟たちに追い払われた）かもしれない。それでも、何よりも重要なのは、どんな状況にあっても、人生を一転するような痛みに応じるとき、神にしがみつき、神の導きを求めるということである。最終的に、私たちに二つの選択肢しかない：人や人生を怨み、最終的に神を怨み、残りの人生を被害者として、後悔の念と共に生きて行くこと。または、神に回り、ヨセフのように、次のように言うこともできます：**あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変らせて、今日のように多くの民の命を救おうと計らわれました。**（創世記50：20）エフタの娘が残してくれた遺産は強力で、イスラエルの女たちを毎年4日間、神に向かい心を再調整する機会を引き起こした・・・それも全て、彼女が人生の最大の痛みに対して、彼女の人生の方向を永久に一転させてしまった父親の急ぎの誓いに怒りをぶつけるのではなく、彼女の神への信仰をもって応じたからである。

エフライムの部族とエフタの戦争： 12：1－6

エフライムは、以前、戦いに加わる事が出来なかったことについてギデオンの文句を言った部族である。今度も同様に、彼らが含まれなかったことを不名誉と訴え、エフタを非難した。しかし、今回の彼らの言葉遣いは、脅迫めいていた。

エフライムの人々は集まってザボンに行き、エフタに言った、「なぜあなたは進んで行ってアンモンの人々と戦いながら、われわれを招いて一緒に行かせませんでしたか。われわれはあなたの家に火をつけてあなたと一緒に焼いてしまいます」。（12：1）

ここでもまた、エフタは外交的解決に従事し、戦いで彼らの助けを求めていることを明確にした（12：2，3）。お互いの意見の相違を一致することはできず、エフライム部族とギレアデの男の間で戦争が勃発した。その結果42,000人のエフライム部族の男たちが死んだ・・・自身のイスラエル人兄弟によって！

エフタの死と後継者： 12：7－15

エフタは六年の間イスラエルをさばいた。ギレアデびとエフタはついに死んで、ギレアデの自分の町に葬られた。（12：7）

エフタ（6年間）とその後継者の指導下でイスラエルは31年の平和を楽しんだ：イブザン（7年）、エロン（10年）、アブドン（8年）。他の士師たちは、どれほど多くの子供たちに恵まれたかに注目される一方、偉大な戦士、エフタには、たった一人の娘を持ち、その娘を主のために犠牲に捧げたことで覚えられている！